

平成 29 年 6 月静岡県議会定例会 質問

質問分類 一般質問

質問日: 2017/07/20

質疑・質問事項: 2 清水天然ガス火力発電所建設計画について
(1) 環境への影響
(2) 清水都心ウォーターフロント地区との関連

○ 次に、**清水天然ガス火力発電所の建設計画についてのうち、環境への影響について**伺います。

清水港は、三保半島に囲まれた日本屈指の良港であり、清水のまちは海とともに発展してきました。高度成長時代には鉄鋼業などの工場が立ち並び輸入木材を利用した製材業も盛んであり、漁業基地としても大型漁船が寄港し造船業などの港湾関連産業が栄える活気あふれるまちでした。

しかし近年、産業構造が大きく変化する中でこれまで清水を支えてきた重厚長大型の産業は衰退してきました。そのような中で静岡県と静岡市は交流人口の拡大を目指した港づくりを進めるという共通の目標を持って、J R 清水駅周辺から清水港の江尻地区と日の出地区一帯を清水都心ウォーターフロント地区と位置づけ平成二十四年から活性化に取り組んでいます。これまで官民による清水港客船誘致委員会の取り組みや富士山の世界遺産登録、世界で最も美しい湾クラブへの加盟、クルーズ船の寄港急増など交流拠点の創出に向けた動きが活発になっています。

また静岡市は、海洋産業の拡大と人材育成を一体で進める国際海洋文化都市の実現を目指して新しい清水都心づくりに取り組んでいるところであります。静岡市は先日、国内では最深の駿河湾の魅力などを紹介する海洋・地球に関する総合博物館をコンセプトとして整備を進める清水港海洋文化拠点施設の基本構想を発表するなど、教育、観光振興を推進し港湾工業都市からの転換を図り、二〇一九年には開港百二十年を迎える港町清水の新しいまちづくりを進めようとしています。

このような中で、旧東燃ゼネラル石油などにより設立された清水天然ガス発電合同会社によりJR清水駅、魚河岸、駅前商店街、住宅地、高層マンションなど人口の密集する場所からわずか数百メートルの隣接地へ出力合計約百十万キロワットの天然ガス火力発電所の建設計画が進められています。計画では二〇一八年着工、二〇二二年度中の稼働を目指して建設するということでもあります。現在までのところ建設計画に係る諸手続のうち環境影響評価については、計画段階での配慮事項の検討結果を記載した配慮書、アセスする項目や方法などを記載した方法書が事業者から知事に送付されておりますが、大気環境、水環境、生態系、景観、地盤、液状化、漁業等、重要だと考えられる項目について送付時には現況での環境調査と予測、評価の予定されていない点がたくさんあります。

火力発電所が建設されることによる清水地区の環境への影響について、どのように認識しているのか伺います。

次に、**清水天然ガス火力発電所と清水都心ウォーターフロント地区との関連について**伺います。

清水港は、昭和三十九年に最初の臨港地区が指定された当時と社会的・地理的環境が変化してきております。本年一月には官民連携による国際クルーズ拠点形成する港湾の一つに選定されました。このことは世界遺産富士山、世界で最も美しい湾クラブに加盟した駿河湾など知事が言うところの場の力が評価されたものであります。

このような世界クラスの国際クルーズ拠点の形成に向けて取り組んでいる清水都心ウォーターフロント地区近接地に火力発電所を建設することについて、知事の御所見を伺います。

(くらし・環境部長 高木利夫君登壇)

○くらし・環境部長(高木利夫君) **清水天然ガス火力発電所建設計画についてのうち、環境への影響について**お答えいたします。

事業が予定されている清水地区は、多くの人々が居住する生活の場であるとともに、清水港周辺のにぎわいやクルーズ船の寄港など人々が集う交流機能を有しております。また世界遺産富士山やその構成資産である三保松原等のすぐれた景観に恵まれており、事業実施に当たってはこうした地域特性を踏まえ、環境の保全について十分に配慮をしていくことが重要であると認識しております。

このため、県では環境影響評価審査会の答申を踏まえ、事業者に対して騒音や振動、排出ガスなどによる地域住民の生活や清水地区を訪れる人々が集う施設への影響や煙突などの配置が富士山を仰ぎ見るこの地域の景観に及ぼす影響を回避、低減するように求めてまいりました。また発電所からの排水に伴う水の汚れや水温の変化が海域に生息する動植物に及ぼす影響など事業者が選定していない項目についても調査、予測及び評価を行うように求めてまいりました。

さらには、南海トラフ巨大地震等への災害に対する安全対策につきましても地域住民等に丁寧な説明を行い懸念の払拭に努めるとともに、十分な検討を行い万全の対策を講じるよう意見を述べてまいりました。

今後、事業者から環境影響評価の準備書が提出されることとなります。県といたしましては、県全体の環境保全に係る計画や政策との整合性等の観点からその内容を精査し必要に応じて意見を述べてまいります。以上であります。

(交通基盤部長 鈴木克英君登壇)

○交通基盤部長(鈴木克英君) **清水天然ガス火力発電所建設計画についてのうち、清水都心ウォーターフロント地区との関連について**お答えいたします。

清水港袖師地区における火力発電所建設予定地は、発電所の立地も可能な工業港区としてかねてより指定されております。当該工業港区はLNGタンクや石油タンクなどが設置され、県内各地域へのエネルギー供給を支える重要な役割を担っております。

県が静岡市等と設置した清水都心ウォーターフロント地区開発推進会議では、対象エリアとなります江尻地区、日の出地区に近接する工業港区の状況を認識した上で江尻、日の出両地区の魅力を一層高める清水都心ウォーターフロント地区開発基本方針を策定し、にぎわいと交流空間創出の方向性を示したところです。火力発電所の設置に関しましては社会的影響が大きいことから、事業者は電源開発手続を進める過程で環境影響評価などの必要な手続を行うとともに、地元住民への十分な説明が求められるものと考えております。

県といたしましては、このような経過を経て経済産業大臣が工事計画を審査しこれを受理した場合には港湾管理上の必要な行政手続について関係法令に基づき適切に対処してまいります。以上であります。

○（小長井由雄君）再質問

次に、**清水の天然ガス火力発電所についての質問**をいたします。

環境への影響、現在事業者から環境影響配慮書、環境影響評価方法書が送付されており、その後出力規模も変更されておりますが、環境に関して大きな問題があると専門家が指摘しています。

例えば、大気環境については局所風による大気拡散のシミュレーションが行われておらず、特に海岸部で発生する海風前線による逆転層による評価が不足しています。また煙の大気拡散現象であるダウンウォッシュ、ダウンドラフトの予測評価も必要だと思えます。つけ加えれば、清水地区の地形は西に有度山、北側に南アルプスの山麓に囲まれているため排出物質が上空によどむ形になっております。また供用開始に伴い大量の湿潤な水蒸気、この百十万キロという出力でございますので多分一日に二万九千立方の水が蒸発すると。これは通常の小中学校のプールの六十杯分の水が蒸発するということになると思えます。これは住民の生活に大変大きな影響を及ぼすこととなります。

また、水環境においてはマイナス十度の冷排水が大量に清水港湾に排出されるにもかかわらず、周辺海域の塩分濃度、水質の変化に対する影響評価がされていません。この排水による生態系に与える影響も評価はされていません。

また、景観においては清水の景観は富士山と三保松原、日本平とが一体の景観を高く評価されているものであります。クルーズ船の誘致を推進していることから、海上からの景観が重要であるにもかかわらずそれも評価をされていません。

さらに、地盤液状化については二次的被害が発生すると周辺に甚大な被害をもたらすことが予想されております。しかし地震の液状化が環境影響評価の対象になってはおりません。漁業においても排水の水質、特に水温の変化による駿河湾の特産であるサクラエビ、シラウオ等に与える影響も評価をされていません。

以上のように、この建設計画は環境に与える影響が非常に大きいにもかかわらず、評価されていない点が多々あります。これから準備書が出されるということで、どんな扱いなのか、それもあります。特に大気については生物指標として亜硫酸濃度が〇・〇三%になると示すというウメノキゴケという地衣類があります。清水市街地ではこのウメノキゴケは現在確認できないということです。この上さらに大気を悪化さ

せる要因を持ち込むのかどうか、という判断もしなければなりません。

以上、環境に関しての問題点について指摘しましたが、どのような問題意識をお持ちか、御所見を伺います。

次に、**清水都心ウォーターフロント地区との関連について**伺います。

一九九〇年代に三保に石炭火力発電所建設計画が持ち上がりました。当時の議事録を読むと県議会で建設の是非について活発な議論が展開されております。当時の斉藤知事は平成四年二月二十六日の知事議案説明において、「長期的、広域的な視点に立って三保地域、清水港、静清庵地域のあるべき姿を考えたとき、エネルギー基地の立地にはより広域的な見地から適地を広く探すことは可能であっても三保の景観や清水港の諸機能、有限に等しい海洋資源を他に求めることは不可能と言っても過言ではない、将来の中部日本の海の玄関口清水港、静岡県の中核、静清庵において計画されていることには大いに疑問が持たれるとして火力発電所の立地については適当とは言いがたい、賛成しかねる。地元清水市においても地域の振興、活性化についてはいま一度再考を要するものである。」というふうに所信表明されております。まさにこの選択により三保松原は富士山世界文化遺産の構成資産に登録されたこととなります。これによって世界との交流拠点の創出、世界クラスのクルーズ拠点の形成に向け、また清水都心ウォーターフロントと位置づけての活性化に取り組むことが可能となっております。

今回の火力発電所の建設予定地は、県と市が一緒に推進し、県も投資している清水都心ウォーターフロント地区に近接しており清水地区の港を生かしたまちづくりに影響を及ぼすものと考えます。

この近接地に火力発電所を建設することについて再度、知事の御所見をお伺いいたします。

○知事（川勝平太君） **清水天然ガス火力発電所建設計画についての再質問**にお答えいたします。

私は、小長井議員がこの火力発電所について披歴されました見解はまことにもっともなことであるというふうに考えております。

まず第一に、この環境影響評価についてであります。大気、水にかかわる影響については御指摘のとおりだと存じます。また景観についても同じであります。これに

つきましてはこの計画が持ち上がりましたときの経緯というのがございます。平成二十三年、三・一一の事故がございまして、御案内のように関東首都圏におきましては東電の管轄内で電力不足が厳しく生じました。周波数が違いますので、したがって六十、五十、これを変えねばなりません。そんな周波数を変える場所というのは長野県の朝日村と佐久間、そしてこの清水にしかありませんで、当時は百万キロワット分しか変えられなかったと。今はそれが二百万キロワット以上に増強中です。ともあれ、その当時の事情というのは電力不足をどうするかということでありました。私はJビレッジにまいりました。そこで広野というところがございまして、百万キロワットの火力発電所が建設されておりました。すなわちこれから原発が使えない以上代替エネルギーとしてすぐに建設ができて、技術を持っているのは火力発電だということであったわけであります。

私は、そうした脈絡の中でこの火力発電所の計画が持ち上がったというふうと考えております。あそここのところはまさにこの周波数を変える場所でもありますし、したがってエネルギーという観点からとると極めて合理的な判断であったと思います。

一方、環境あるいは景観、あるいは観光というその観点は当時は比較的希薄であったと存じますが、しかし今はまさにその観光立国、あるいは環境、こうしたものに対する関心が極めて高まっております。むしろこれが中心にさえなっているのが今の現状ではないかというふうに存じます。

そうした中で、交通基盤部を中心にふじのくに静岡県全体を回遊式庭園にしようとしてまた三十五市町はそれぞれガーデンシティというふうに位置づけようと、そしてまたそれぞれめぐるところには富士山あり、伊豆半島あり、南アルプスあり、浜名湖あり等々、それぞれ世界クラスの美しい自然景観群があるということ、そしてまた静岡県には美しく品格のある邑として認定されているものが百以上あります。その中でも日本で最も美しい邑に認定されているものが二つございます。

こうした事柄が何を意味しているかということ、静岡県はまさにその庭園の地域であるということとでございます。そうしたことと、あそこに火力発電所があるということが果たして合うのかどうかということが問われると存じます。環境、景観、そうしたこととエネルギーと、どちらをとるかということとでございますが、おのずと結論は出ているというふうに私は思います。

それから、**ウォーターフロントとの関係**ですけれども、縣市一体でやっております

けれども、ウオーターフロント、これは今まさに海洋文化都市をつくろう、あるいはクルーズ船の拠点港となろうと、そしてそれが国交省から認めていただいて、まさにこの観光立国を今、清水港を拠点としてやっていこうということでございますから、それと火力発電所があることと、それを促進することになるのかと、観光をですね。ならないと思います。

しかし、議員御指摘のとおりこれは県市一体でやっていかなくちやいかんということでもあります。ですから歩調を合わせることがとても大切でございまして、この歩調を合わすのに若干時間が要るかなというふうに私は思っております、余り過激な発言をするとまたハレーションを起こしかねないのでですね。しかしこの件について小長井議員が言われた事柄に満腔からの賛意を表しまして、御懸念についても共有しているということを申し上げたく存じます。以上でございます。

(三十四番 小長井由雄君登壇)

○三十四番(小長井由雄君) ありがとうございます。

これは平成二十六年の統計ですけれど、国土交通省中部地方整備局のホームページによりますと、クルーズ船が一回清水港へ来るとその経済効果は六千四百万円と非常に大きな経済効果があるということでございます。知事もこの清水港について非常に私と同じような考えを持っていただけるということは、ありがたいと思っております。

清水は、斉藤知事が三保松原を守ってきたと同じように、ここの、今非常に、あのときには玄関先にかまど、というようなこともおっしゃいましたけれども、これはもう既に応接間に入っているわけでございます。裏には居間があるわけでございますので、ぜひともこの清水港について静岡市と手を携えてやっていただきたいと思っております。以上で質問を終わります。ありがとうございます。(拍手)